

**第30回記念
神奈川県美術展**



第30回記念神奈川県美術展

●1期展：

日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形

平成6年10月5日(水)―10月16日(日)

●2期展：

工芸、書、写真

平成6年10月19日(水)―10月30日(日)

会場

神奈川県立県民ホール・ギャラリー

主催

神奈川県美術展委員会／神奈川県

共催

(財)神奈川芸術文化財団

平塚巡回展

平成6年11月10日(木)―11月15日(火) 11月14日(月)休館
平塚市美術館

厚木巡回展

平成6年11月25日(金)―11月30日(水)
厚木市市民ギャラリー

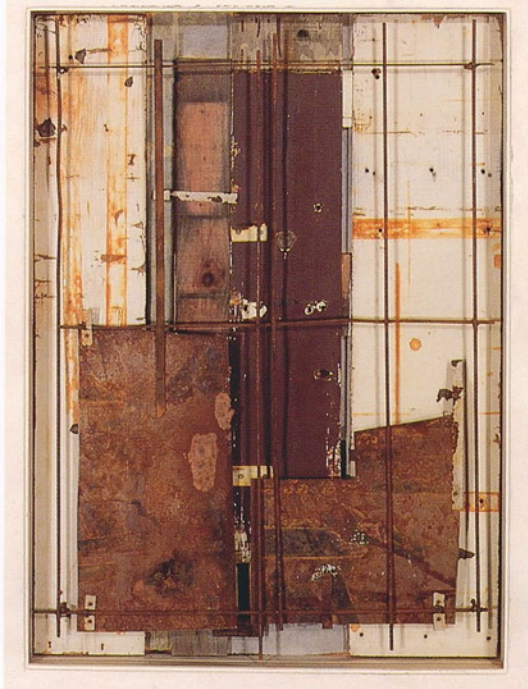
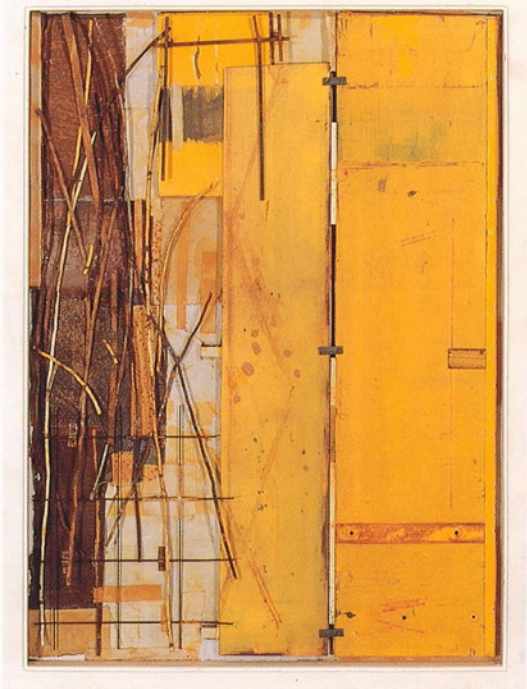
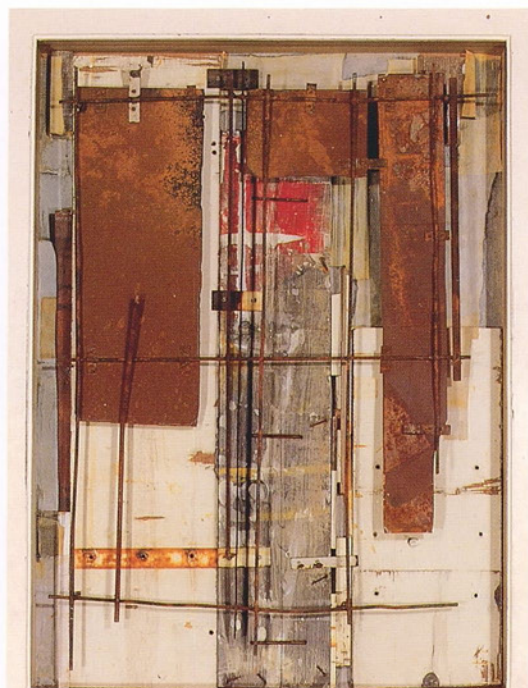
1 期展：日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形



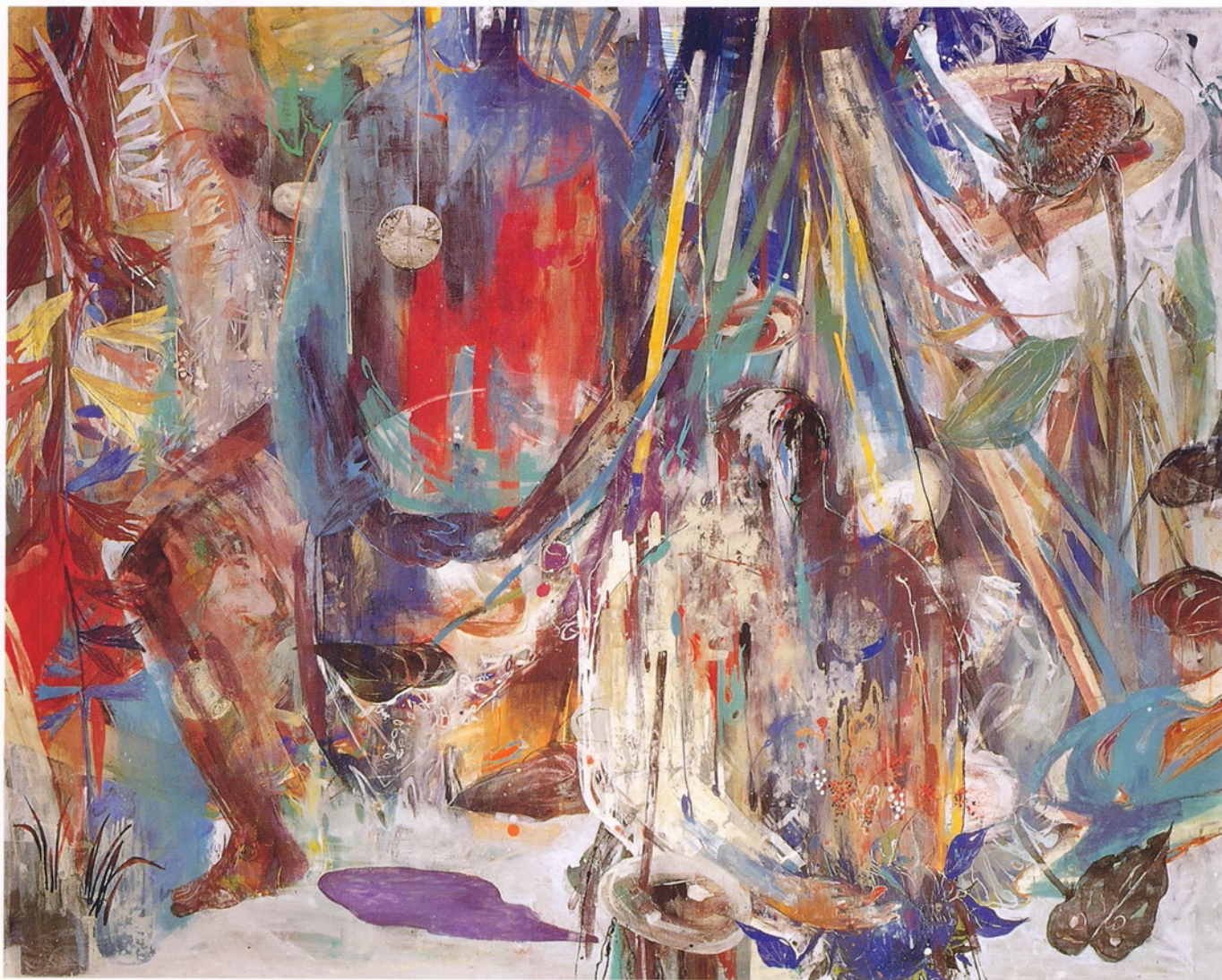
●大賞／彫刻・立体造形 野辺……辻 忍



●準大賞／日本画 月光……加藤 正二郎



●準大賞／洋画 SCENE「Faleloa」……仲田 智



●特選／日本画 青影……神 彌佐子



●特選／洋画 AUGUST.....萩原 和子



●特選／版画 心象風景(今昔)……ウチダ ヨシエ



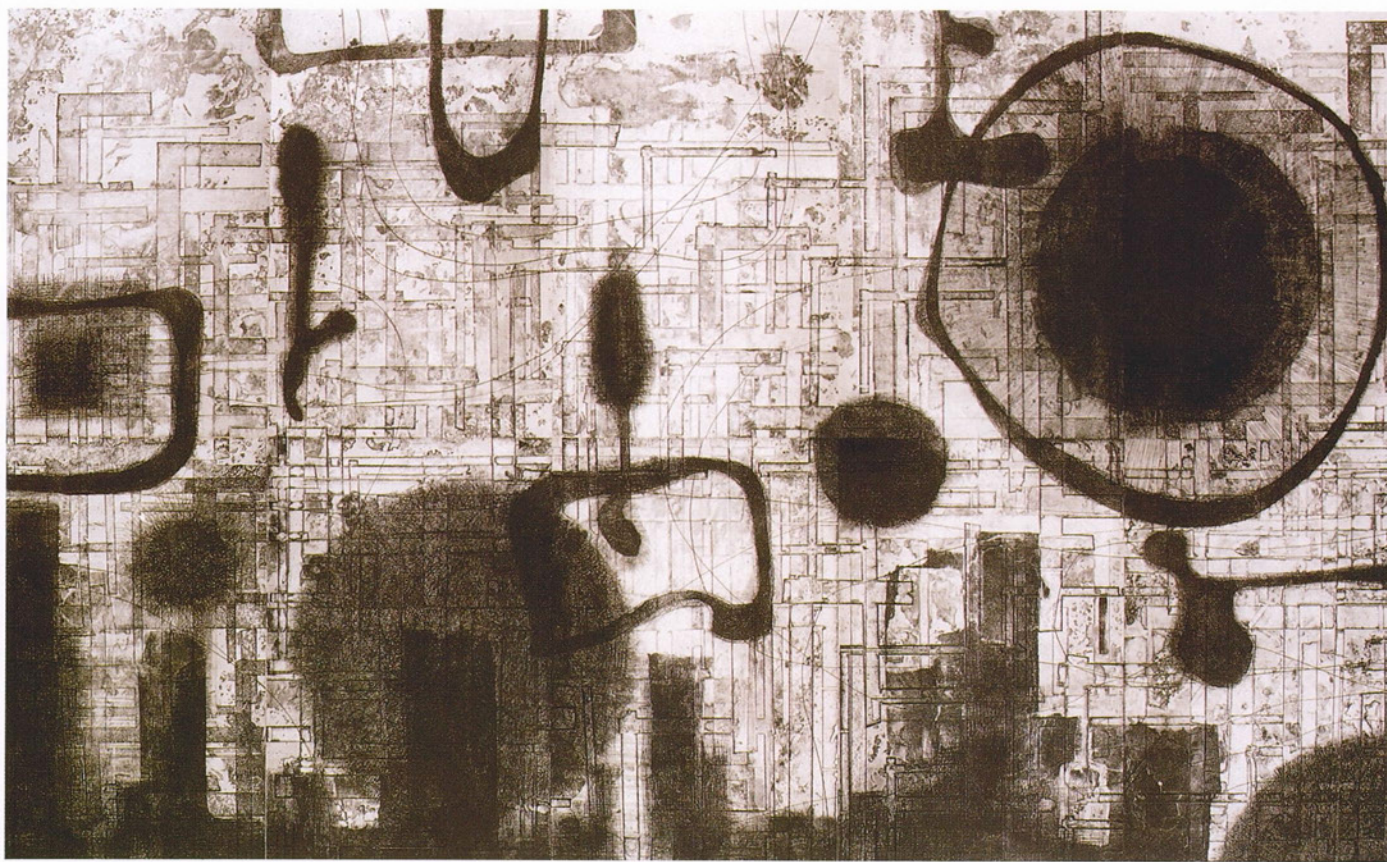
●特選／彫刻・立体造形 Excrment(クーラン)……三沢 厚彦



● 県立近代美術館賞／版画 Visitor……藤田 修



●特別奨励賞／洋画 アトリエの女達……仲 圭子



●特別奨励賞／版画 10-9408……市川 敏夫



●特別奨励賞／彫刻・立体造形 風の軌跡一月あかり……辻 眞由美



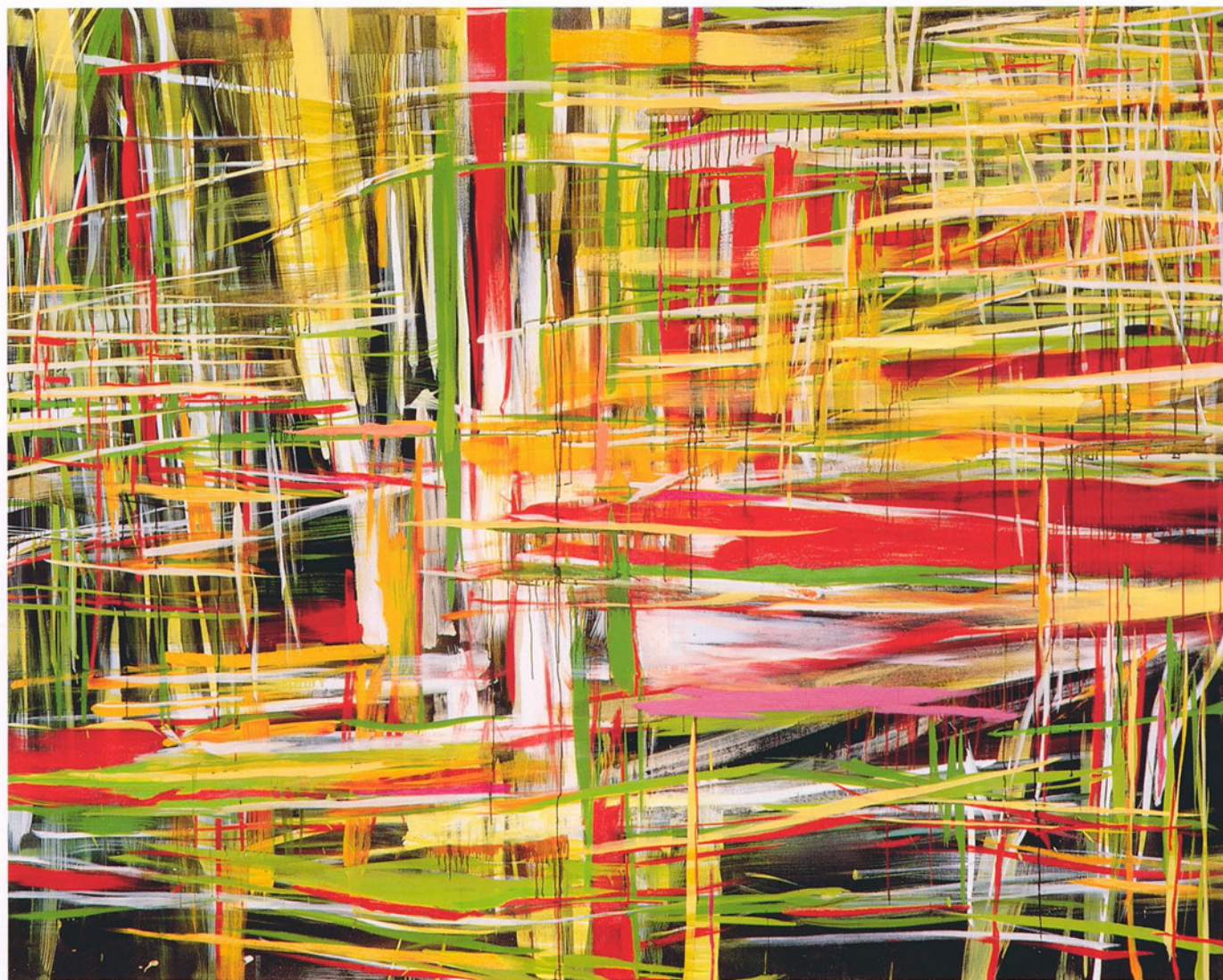
●特別奨励賞／彫刻・立体造形 199X年の雫……田中 太賀志



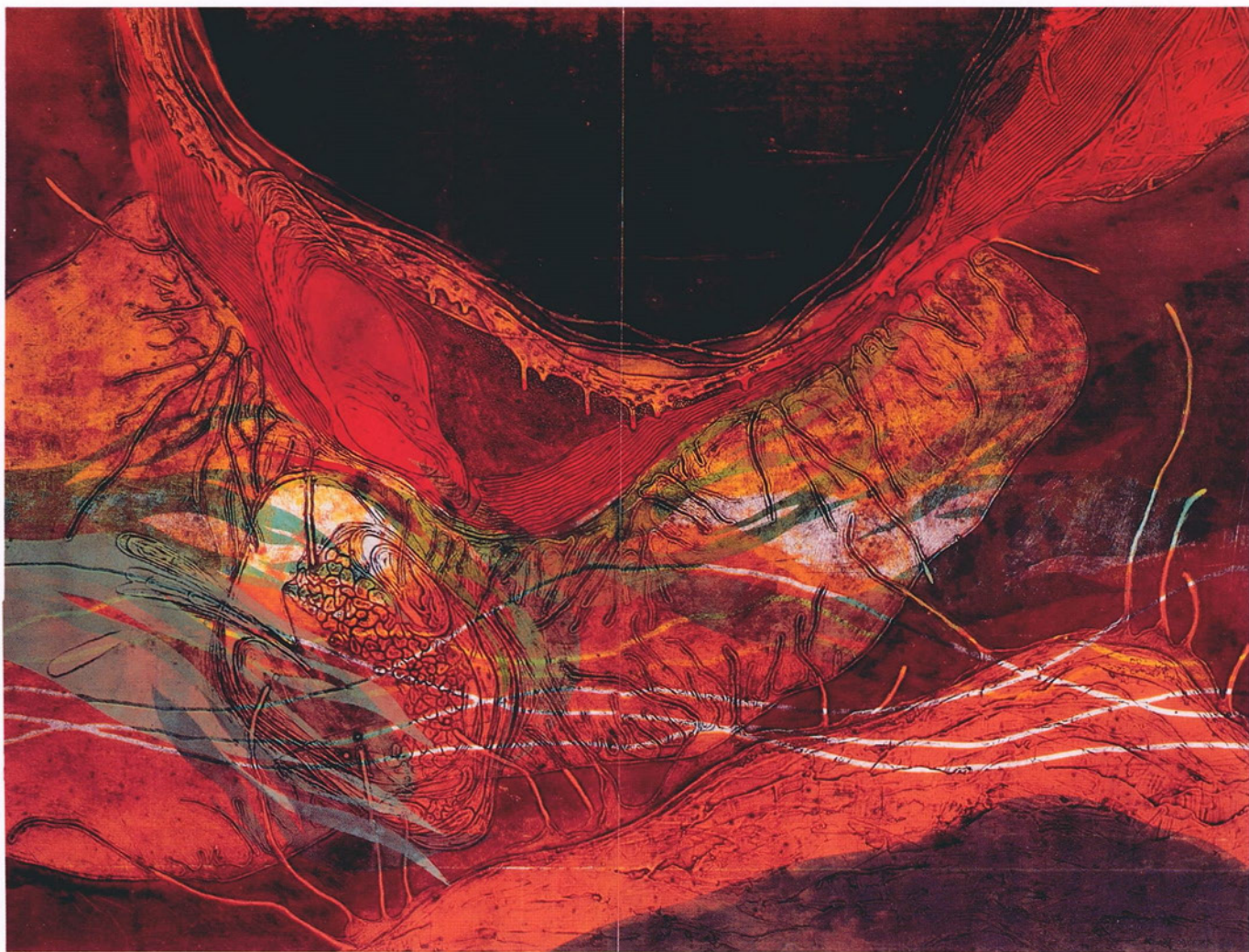
●美術奨学会賞／日本画 RYOの空間(あの夏の日に)……鈴木 國男



●美術奨学会賞／日本画 あるべき場所……山口 月世



●美術奨学会賞／洋画 表層残像No.7……菅沼 稔



●美術奨学会賞／版画 trap……西岡 久実



●県議会議長賞／日本画 晩夏……能島 浜江

受賞作品目録 [日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形 部門]

大賞	辻 忍	彫刻・立体造形『野辺』	海老名市
準大賞	加藤正二郎	日本画『月光』	東京都大田区
準大賞	仲田 智	洋画『SCENE「Faleloa」』	相模原市
特選	神 彌佐子	日本画『青影』	東京都国分寺市
特選	萩原和子	洋画『AUGUST』	横浜市
特選	ウチダヨシエ	版画『心象風景(今昔)』	大和市
特選	三沢厚彦	彫刻・立体造形『Excrcment(クーラン)』	藤沢市
県立近代美術館賞	藤田 修	版画『Visitor』	横須賀市
特別奨励賞	仲 圭子	洋画『アトリエの女達』	藤沢市
特別奨励賞	市川敏夫	版画『10-9408』	鎌倉市
特別奨励賞	辻 眞由美	彫刻・立体造形『風の軌跡一月あかり』	藤沢市
特別奨励賞	田中太賀志	彫刻・立体造形『199X年の雫』	秦野市
美術奨学会賞	鈴木國男	日本画『RYOの空間(あの夏の日に)』	相模原市
美術奨学会賞	山口月世	日本画『あるべき場所』	相模原市
美術奨学会賞	菅 沼 稔	洋画『表層残像No.7』	相模原市
美術奨学会賞	西岡久実	版画『trap』	横浜市
県議会議長賞	能島浜江	日本画『晩夏』	大和市

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

[日本画]

北澤明子……………『流転』
三村伸絵……………『廻(II)』
宮本美保……………『夢』
福本 正……………『A DAY』
斉藤 弥……………『アユタヤのねむり』
月館京子……………『行く夏』
大野静子……………『濤(とう)』
松村響子……………『6月17日、雨のち晴れ』
西村智也子……………『対話』
洞口真理子……………『内面への道』
永野耀子……………『ブロッコリー畑』
鶴田耕治……………『時の窓辺』
吉田千恵……………『花宴』
平出 南……………『序曲』
川村紫朗……………『幻野』
品川成明……………『刻(朝)』
大熊信子……………『薄暮』
大野麻子……………『雨あがり』

[洋画]

前田啓子……………『虜(とりこ) A』
渋谷美智子……………『蝕・溶 I』
岡本嘉子……………『彼方へ』
石黒 昭……………『廃船』
藤田真理……………『コンピューター クライシス '94-(D)』
伊藤彰規……………『気-生成 III』
平田清隆……………『作品(III)』
金子 徹……………『creation field β』
金谷ゆみえ……………『忘却』
耕納都子……………『黄泉の国へ』
松浦昌明……………『SPACE-Port Town-』
宮崎 剛……………『On The Board, 216-A(50枚のコピーと8コのリんご)』
横山博志……………『遭難』
工藤 力……………『イスの風景』
松澤五男……………『軌跡 2』
田端麻子……………『「でんしゃ くる。」』
溝呂木時子……………『或る日突然 I』
森田稜子……………『PURE I』
鈴木悦子……………『定まらぬ着地点』
原田智恵……………『ジューゲンの踊り』
横地 光……………『時の再生』
杉野和子……………『潜-II』
水村綾子……………『行方知れずの想い』
鶴原靖子……………『心理的空間』
岡泉早苗……………『影-立つ』
井口貴夫……………『Water III』
伊藤琴恵……………『蔓薔薇の庭で I』
臼居孝子……………『日を継ぐあいだ』
古川勝幸……………『M-POOL』
平沢理紀夫……………『男と女』
津田ゆき子……………『化粧する』
犬飼 正……………『風紋の軌跡 (B)』

安田文夫……………『LIVE IN SHONAN』
公文淳子……………『風灯 II』
佐々木美直子……………『時の舞台 II』
熊田 至……………『旅'94 ハイデルベルグ』
堀岡正子……………『樹の譜 (I)』
西国 学……………『無題 (I)』
園尾 天……………『さようなら』
関 迪子……………『コンポジション I』
古藤典子……………『Work-緑-9408』
西川美智子……………『ある日』
河上明彦……………『間の構造-9406』
松本京子……………『ODYSSEY-I』
北川朝子……………『1994・August』
田中善隆……………『水軍伝説』
北泻美波……………『変容する形態 II』
堂免 修……………『Appearance 4』
臼井恵之輔……………『FU94-7』
大庭京子……………『永遠の森「東へ」』
生駒幸子……………『一隅 I』
桜井陽子……………『ONE SPACE I』
沢田滋野……………『消えゆくもの II』
大塚とみ子……………『カオスの表現 (一)』
廣田純男……………『郊 (I)』
石井 誠……………『宇宙生命体 β 』
松木正代……………『私は泳げない I』
瀬尾きみ子……………『在る-B』
大橋 幹……………『蝕・海-遠い海』
本田和子……………『イスラム・バラード』
中山智介……………『それぞれの選択』
永野優子……………『Landscape 94-B』
和田 彰……………『野の意味-94002』
松下辰枝……………『THE SPACE I』

長岡一豊……………『かくれんぼ』
肥沼 守……………『衆-13』
中村智恵美……………『STILL LIFE-37』
護嶋春水……………『連声 I』
吉田誠子……………『…のままに II』
伊藤佑子……………『午後の部屋』
谷川悦子……………『幻の樂園 II』
今川保充……………『風景』
斎藤 守……………『喜怒哀楽』
雙田 実……………『SEW SPACE UP』

[版画]

小泉貴子……………『Around』
 藤川美子……………『1994・7・A』
 谷澤真希……………『西方見聞録 4・13』
 井上 厚……………『星の夜 I』
 小林 守……………『ストレス F』
 馬渡響子……………『変身』
 鈴木良男……………『私のアリス II』
 中村晴子……………『無声地帯』
 澤岡泰子……………『“明日に向かって飛翔する者達へ” A』
 田辺いづみ……………『植物の叫び』
 高橋秀幸……………『奏でる』
 小幡悦子……………『奏でるとき II』
 加藤 晶……………『Sea paradise』
 箴島喜久子……………『白からのsuggestion』
 中込洋子……………『voyage III』
 大槻 博……………『「記」-34』
 村山あや……………『COMMUNICATION』
 鈴木玲子……………『SOLITUDE』
 清野耕一……………『Genetic Code 94-I -遺伝コード-』
 山崎良子……………『空を想う』
 三塩英春……………『アルヘティプス・マンダラ II』
 宮野美和……………『はじめの一步』
 野田青隆……………『収束スル生命(アラカルト'94-A)』
 朴 相洙……………『Nature-0894 Revolution』
 朴 明蘭……………『Something What-II』

[彫刻・立体造形]

石田真利……………『うまれる前のはるかな記憶』
 小宮彌栄子……………『巨人界<SPACE '94>』
 金子友紀……………『包むこと(待つもの)』
 赤岡正行……………『玄黄』
 三輪浩隆……………『傾きのある領域』
 矢作隆一……………『間の中で我々は今』
 村上裕之……………『あいまいな子宮』
 結城 勉……………『P・D-12 “LAND SCAPE”-IV-』
 佐藤由佳子……………『樸く彫られていない木』
 菱刈俊作……………『森の底へ』
 濱宇津めぐみ……………『five』
 佐藤守男……………『内なる響』
 前島健治……………『父と子の会話』
 菅 泰子……………『光冠』
 郡田政之……………『精神の庭』
 永島洋子……………『羽衣』
 鈴木朝湖……………『1994. 作品No.16』
 たべけんぞう……………『MAGNETIC FIELD 94-S-2』
 遠藤里枝子……………『潰された頭部』
 高橋 勉……………『動く水面』
 橋本 諭……………『ICON』
 岡野陽子……………『三つの核』
 杉田憲也……………『fuse』
 川井敏幸……………『SEED』
 地場賢太郎……………『Black Tower』

審査経過

日本画

●搬入点数75点(60人) ●入選点数23点(23人)

今年の総数は75点、昨年度は49点だったので大分出品者は増えていた、また昨年よりも私が感じたのは、レベルがずっと上がって来ていること。初出品が多くあって気持ちよく審査出来た、審査員一同、チームワークも何故か合って、あまり個人的好悪の趣味の問題もなく、すんなりと決まった。さて、たしか昨年は賞の候補なんかも2点まではすぐ決まったが、4点はこのレベルでどんなものかとみな思ったくらい低調だったが、今年は、記念展で5点も出さねばならないには迷うことなしにスナナリ選出され、みなよかった。しかし特に図抜けての力作や、構成力の強いものも特に無かったように思われる。5点それぞれ若くて夫々のよさだ……。県展でいつもこのコンクールは他と比べて毎年動いていていい。どんどん賞や入選した人が変化すること、去り又来る一。そうゆうことにたまり水のようにとどまらず、次はもっと上もっとと通りすぎてゆくのであり、勉強本位なコンクールの特色で、微風のように爽やかでいいと思える。

受賞の能島浜江さんの「晩夏」も色彩が女性らしくやわらかく、これからのびてゆけばと考えさせる。寒色系の画面だが、下塗りの朱が見えがくれて美しい、又銀灰色の使い方も巧み、マチエールもざらつきが少ない、あまり団体展などにしばられぬ事を祈るだけだ。さて今一人は山口月世さん、24才、美術奨学会賞、題は「あるべき場所」繊細な構成、テーマ。

今年も秋に入って、初夏の猛暑はこの頃の秋空のすじ雲と一緒に

に一刷毛とんで去りゆき、まもなく美しい実りの秋もいずれ訪れるとして、入選者の中にもこの涼風願望の絵、時期的に多かったようだ。さて、いつも見かける達者な画面で、三村伸絵さんの「廻(Ⅱ)」、横長の花の絵も研究今一いき。今年は墨絵風の描きなぐったようなものが何点か元気に出品されていたが、どれもザツでやはり日本画はザツは大敵、だめだと思った。力の有るものならいいが、そうでない場合ではただの汚い絵となるのである。人物画で他にデッサンのいいかげんなのも多かったし、とにかく若い時もっと煮詰めて時間をかけて、つっ込んでやる態度も大切なことだから。懸命さがほしいー。受賞した、鈴木國男、明るい童心の個性は今年のはよかったようだ。黄土色、日本画独特の昔からの泥絵の具を輝かせて使っている。神彌佐子「青影」、前者と同じモダンな画面構成、青、白に魅惑、リズムカル、32才、鈴木氏は34才、加藤正二郎40才、「月光」が今回の準大賞になった。共に県内の養護学校の先生。

入選の中で、ふと心に残ったものがあつた。大熊信子さん62才の「薄暮」、月館京子「行く夏」は入落の線上をさまよったりしたけど、やはり入った。とても真心のこもったと言うか、一生懸命描いている絵で、それほどうまい画面でないが入選してまずはよかったこと。今後又来年に力作も沢山出してくるようにと期待。爽やかな方向に全体の流れがゆくようと思っている。

近藤 弘明

今回の神奈川県美術展には、初めて審査の一員として参加させて頂きました。総じて出品作品のレベルが高いように思われました。そして本年は30周年記念展とのこと、出品作品413点の内入選78点、激戦の様子でした。洋画部門においては、写実的な作品から抽象的な作品まで、幅広く展開されており、この範疇の中に現在の日本の美術の状況が、そのまま反映されているような感じが致しました。

準大賞受賞の仲田智氏の作品「SCENE『Faleloa』」は、材質に木、鉄、ガラスを用い、素材それ自体にすでに時間的なマチエールがつくられており、その時間に対して創作の意欲が呼応されるような、平面を越えたところにある作品です。その感覚的センスは構成や色彩に鋭敏に反映され、見るべきところがありました。美術奨学会賞受賞の菅沼稔氏の「表層残像No.7」は、空間構成にエネルギーを感じさせ、突破口を模索する作家の意志が伝わる作品でした。特別奨励賞受賞の仲圭子氏の「アトリエの女達」は、グレーを基調としたリズムカルな作品で、現代の飽食の時代に対するユーモラスな一閃のように感じられました。

尚、抽象系の作品には、欧米の作家のアイデア、スタイルの影響が強いのか、あらためて追認する様な作品が少なくなく、そ

れが自己の作品を安易に正当化させる要素になっているという、弁証法的なものを感じさせられました。具象系の作品については、作家自身が作品に向い合いながら周囲に気を取られているようなかたちのものが目につき、作品の良し悪しとは別に、内に向かって絞り込んでゆく姿勢を持ちたいと思いました。現在ビジュアルなものがこれ程多種多様に存在する状況の中で、「何故に絵画なのか」ということをもう一度考え、認識してゆきたいと思います。あらゆる意味で情報の多過ぎる程の現代には、見ないこと、聞かないことが逆にイメージを育てることもあるかと思います。現実それ自体が細分化され、位置づけられている中で、いかにイメージを広げ、その濃度を増すことによって現実を押し返せるか。イメージの重要性が求められています。描くという行為そのものが、自分自身を理解する手立てであることを強く意識しながら、豊かな作品を目ざして、私も一緒にやってゆきたいと願っております。そして、神奈川県美術展に意欲的に出品されている作家の方々のエネルギーが、良いかたちで結集されている今回の記念展に、私も参加させていただいたことに感謝いたします。

遠藤 彰子

版画

●搬入点数97点(48人) ●入選点数29点(29人)

今年の夏は異常に暑かった。毎日つづく暑さのために、制作意欲が減退してしまっているのではないかと思った。ところが、昨年よりも応募点数が増加している。しかも大作が多い。

小さな作品がいけないというわけではないが、大きな作品にはそれだけの技術も要求され、力がこめられる。展示効果なども考えると、小品は高質な密度がもとめられる。結果的には、48名、97点のうち、29点が入選する。やはり厳選だ。

たしかに作品の質、表現力や技術面の向上が見られる。ある程度の水準に達しながら、無難にこなしていく。手際のよさはなかなかのものである。逆にいうと、個性的な自己主張が弱くなる。破壊からの創造といったことを考えなくなっている。

現代美術の状況は多様化し、その美意識を拡大させ希釈化されている。版画の世界でもそれがいえる。より実験的で創造的な思考と表現がなされなければならない。穏健ともいえる作品が多すぎた。これからに期待しよう。

一つの流行のパターン、イメージとなっていた細密画風の静物や少女を描写する作品（そこには甘美なリリズムがただよう）は、なくなってきた。しかし、どこかで見たことのあるフォルムや、同質的なイメージが浮びあがる作品が、まだ、混在していた。独創性は技術を上回って存在するものである。

若い世代の作家たちは、やはり新鮮なエネルギーをもっている。発想の柔軟さもある。すでに自己のスタイルを確認している作家は、安定した作風をしめしていく。これからの展開を楽しみにしたい。毎年、出品している作家も多くなっているが、県美術展ということからいえば、もう少し幅の広さが望ましい。新顔の活躍が欲しいものだ。

例年のように審査は、投票でなく、討論によって行われた。審査員の意見を尊重しながら、合議で決定していく。時間はかかるがこれも一つの方法だろう。ずば抜けた作品もなかったが、どうしようもない作品もなかった。すべてが紙一重ということである。今年の版画部門はそんな感じがした。

入賞した藤田修（県立近代美術館賞）は、すでに中堅作家として活躍している。写真製版による黒と白の作品には、静寂な空間が表出される。特別奨励賞の市川敏夫のモダニズムと特選のウチダヨシエの青による構成。美術奨学会賞をうけた西田久実の激しい赤色のリズム。それぞれが適確な手法によって、独自のイメージを強く主張していた。

柳生 不二雄

彫刻・立体造形

●搬入点数70点(63人) ●入選点数29点(29人)

いやはや今回の神奈川県美術展は、始めてから今年で30才になるそうで、私に憶えのある感覚で鳥澁がましいは承知のうえ、比較対照にならぬお話をしますが、私が出品したころは第1回展からでナニモカモが前例のない、自分のまえには何もない空間があるだけで（のような気だけがあって）自分を現わすのには一番よかったというか、やりやすく自己主張というより開放感があったようでした。それがもう重ねて30回。このたびの応募作品点数は70点。一拝、見渡せば立場が替ったせいかも知れませんが、いつかどこかで出会った気が前出になって、出品者のレギュラー化とでもいうか、造形表現の定着化とでもいったほうがよいのか、よく解らなくなるような感じを全体から受ける。その覚えは新鮮とか鮮明にすることの大事さより、自分の思考・考慮が自分のキャパシティ空間が一杯になったら表に現わすといった実践、実行あればよい人間動作とというか、繰り返しの連続感が強く見えてしまったような気がしてなりません。その内での進展はあるのだろうか、それは何か。それは自分を治めるとでもいうのでしょうか、私利私欲の色気だけではないことは解りますが、それよりも開放された人間（やりたいことがあって、やりたいことをやれる人）ということではないでしょうか。

ソロソロ点点の作品についてであります。先ずは満票とはなりませんでしたが、“大賞”の辻忍さんの“野辺”には自身の開放に加えて、もう一つの表現（イメージゾーンからクリエイティブゾーン）があってよかった。それにつけても一対とはいいませんが、もう一点の“草木”とで一点としたらどうだったろうか。三沢厚彦さんの“クーラン”木を主としたミックスメディアの作品は、ありきたりさを超えて実に楽しくいい。他の分野の表現のなかにあったとしてもおかしくない。立体造形・彫刻がより生きるということになる表現とでもいいたい。辻真由美さんの作品“風の軌跡―月あかり”、これは“やさしい楽しさ”安心という存在感があって面白くよかった。選考委員のおひとりが「こういうものが身の辺にないと窮屈だよなあ〜」。まったく同感である。田中太賀志さんの作品“199X年の雫”は予言めいたタイトルと形態。仮想・仮説はつねに人を動かし働かせて技術・実践をうわまわる表現を生むようだ。それにつけてもマダマダ・コレカラコレカラ見落しもある。それ等のご勘弁願って以上。

最上 壽之

2期展：工芸、書、写真

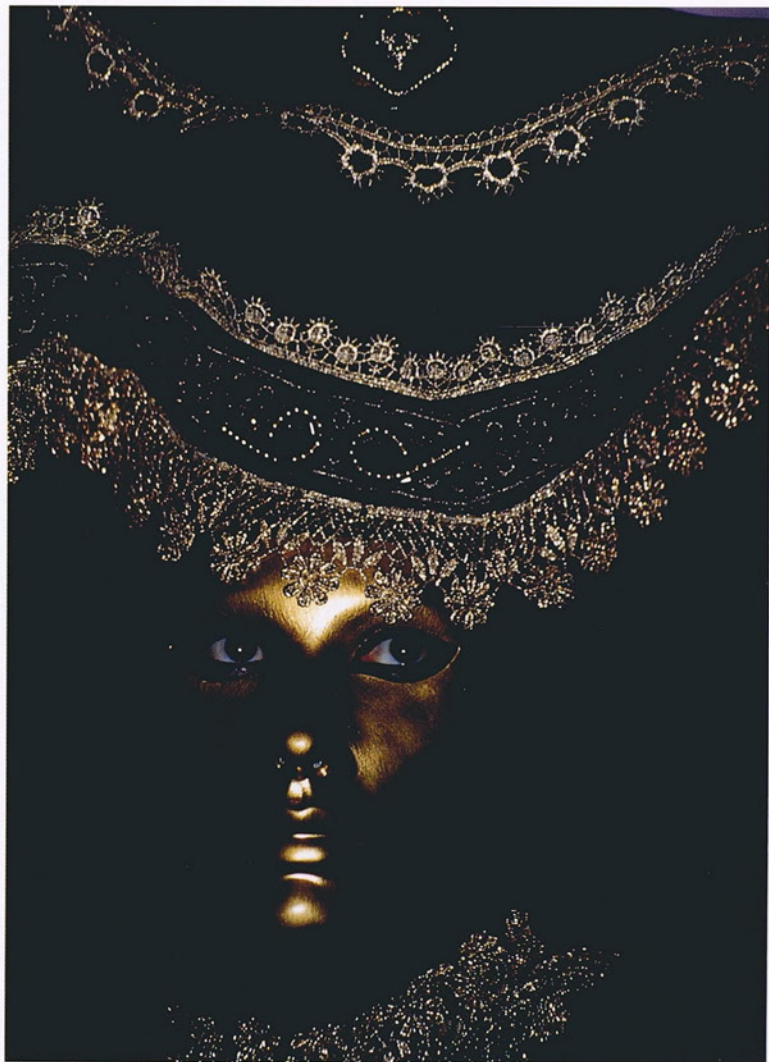
静寂の中に立つ真実の園へ
 おもひ顔やさく外へ流るる

笹澤美明詩
 菊香葉



●準大賞／工芸 彩泥鉢……人見 啓一

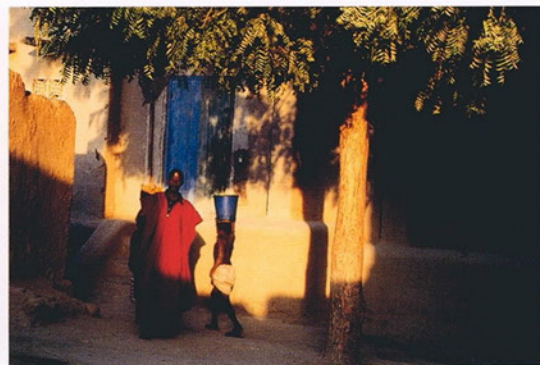
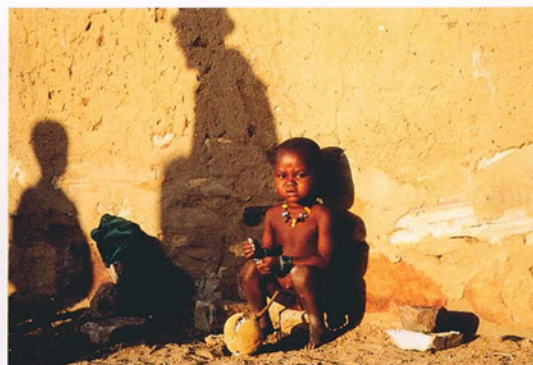
秋風和輕清曉知是佳人也
 呼家字翩然一鶴自東北
 得已江流至城在滿幅明
 寒雲我坐踏青泥初平
 起帆制事裁長波馬不
 得裁權轡願並豐侯瀛
 平田顯林楓葉點清
 賦當時玄國好兄弟射
 堂佳月城面青雲第
 地江難以雲又作飛鴻
 魚爪地老生怕道綠
 熟人若問無說金華事
 如口銷折幾香心看
 我衣衣衣重豐淚書
 宏道詩明洞



●準大賞／写真 夢幻……山口 道子



●特選／工芸 遊園地……沼野 真紀



●特選／写真 アフタヌーン(西アフリカ)……吉田 陽子



●特選／写真 Sanctuary……平井 和穂



●特別奨励賞／工芸 南溟の戦跡……南雲 龍比古



●特別奨励賞／工芸 青内被コンポート……山口 浩二



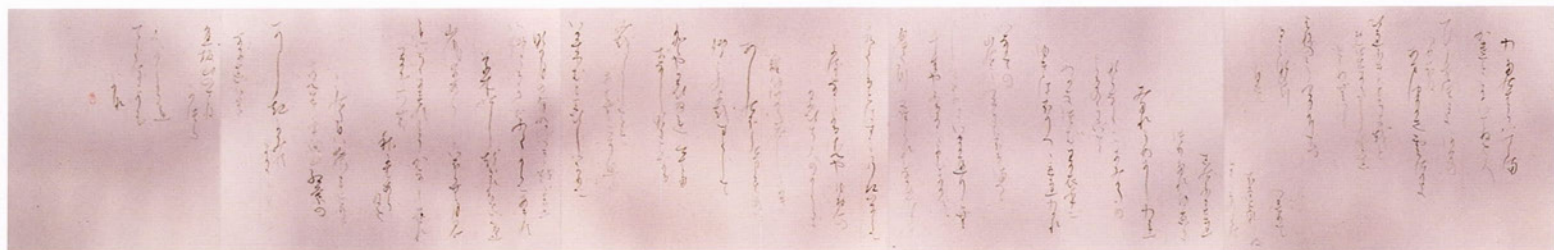
●特別奨励賞／工芸 秋風のささやき……太田 美佐枝



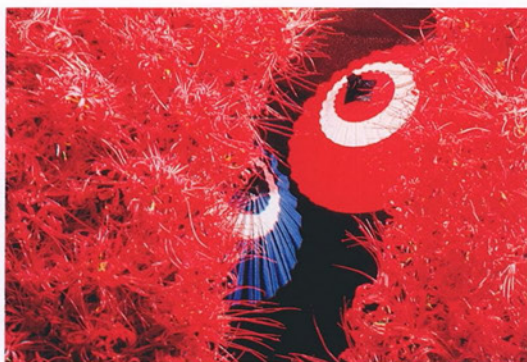
●特別奨励賞／書 李白詩 送友人……春山 右涛



●特別獎勵賞／書 劉基詩……浜岡 見雲



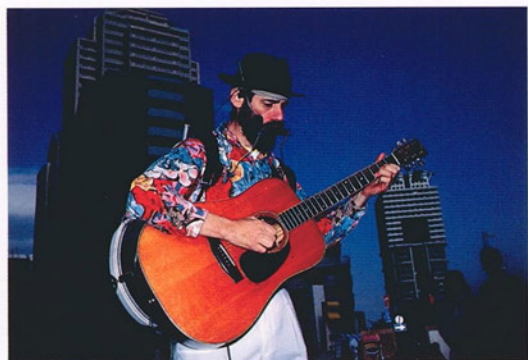
●特別獎勵賞／書 百人一首……甲斐 青女



●特別奨励賞／写真 花いちもんめ……尾原 芳子



●特別奨励賞／写真 熱い日……矢花 一弘



●特別奨励賞／写真 ポートサイドYOKOHAMA……山本 潤一郎



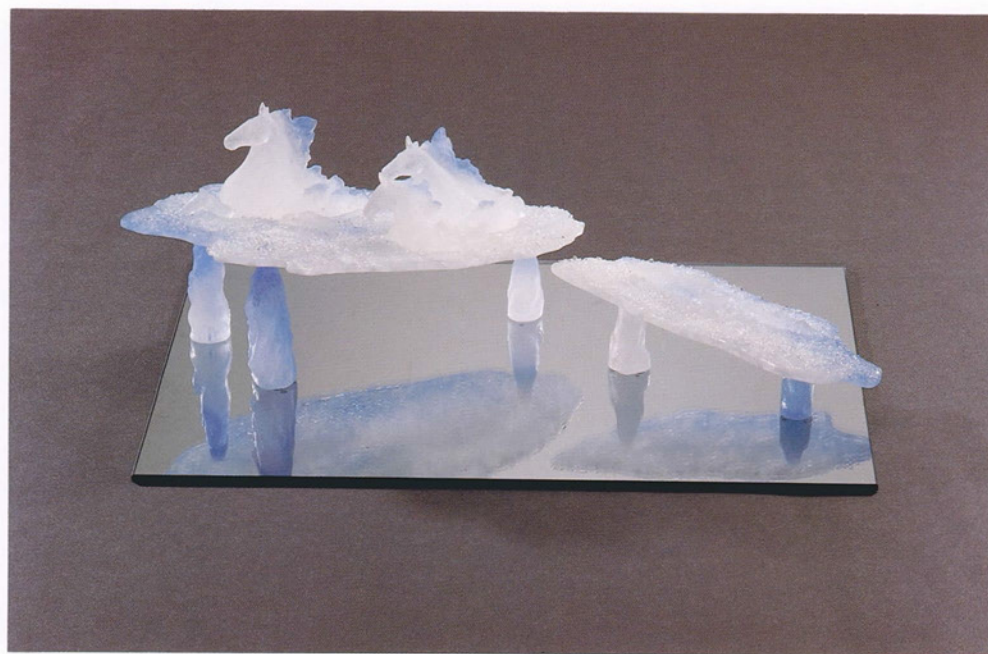
●特別奨励賞／写真 彩雲……青木 保親



●美術奨学会賞／工芸 響……五味 仍枝



●美術奨学会賞／工芸 戯れ……竹神 修美

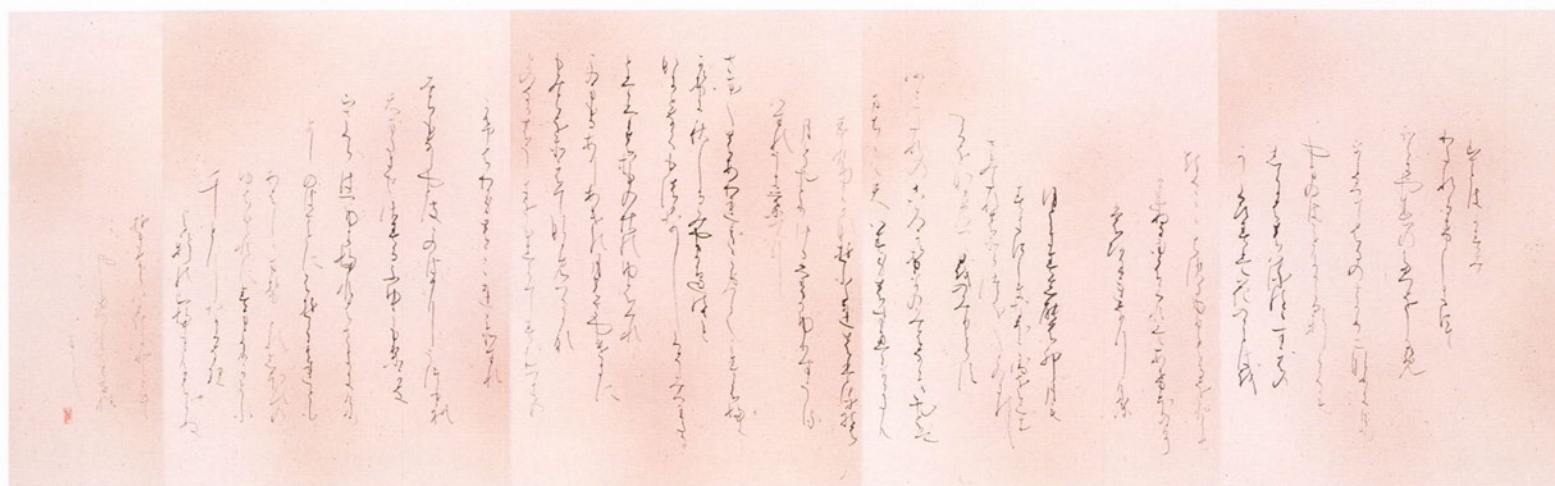


●美術奨学会賞／工芸 境の外側……鳥海 綾子

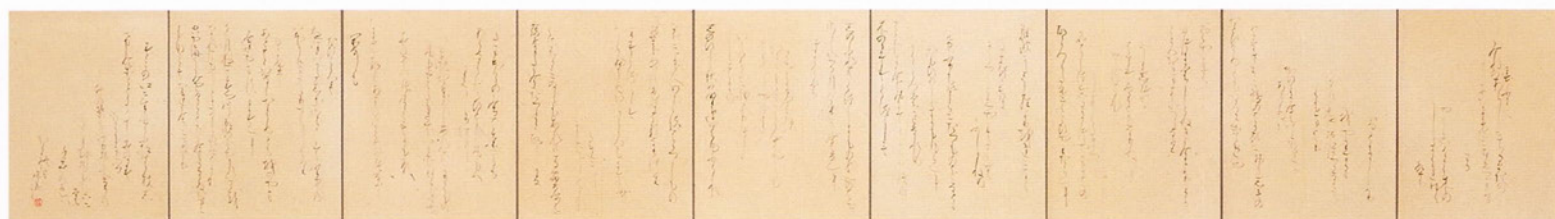
秦川朝望迥日出正東峰盡色山河淨
 遙遙城郭重秋聲萬戶千窓色正清
 松木弓陶與款漣玄亦寂寂濃

李頎詩
 幽翠書

●美術奨学会賞／書 李頎詩……杉山 幽翠



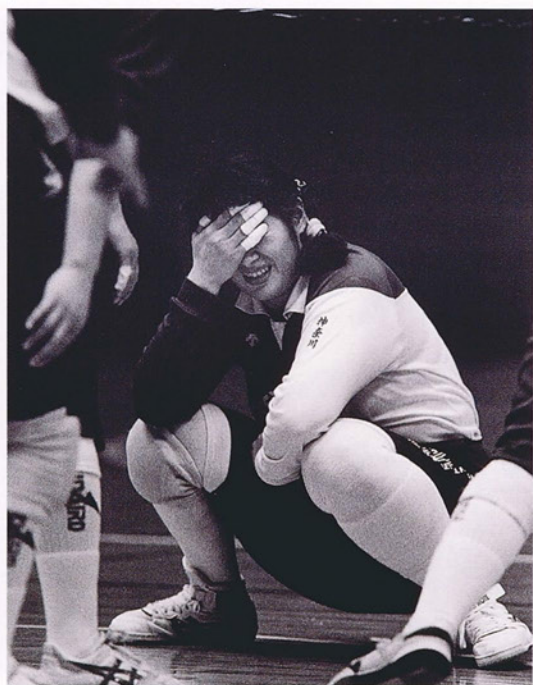
●美術奨学会賞／書 山家集……中西 雅舟



●美術奨学会賞／書 春ふかみ……岡田 珠美



●美術奨学会賞／写真 大連の街角……九鬼 康裕



●美術奨学会賞／写真 明暗……古郡 和敏



●美術奨学会賞／写真 ミコノス・スケッチ(祈りへ)……山本 暎一



●美術奨学会賞／写真 絵どうろう……石井 公一

受賞作品目録 [工芸、書、写真 部門]

大賞	八木香葉	書『笹澤美明詩 菊』	相模原市
準大賞	人見啓一	工芸『彩泥鉢』	茅ヶ崎市
準大賞	柴岡明洞	書『袁宏道詩』	横浜市
準大賞	山口道子	写真『夢幻』(2枚組)	川崎市
特選	沼野真紀	工芸『遊園地』	相模原市
特選	吉田陽子	写真『アフタヌーン(西アフリカ)』(3枚組)	横浜市
特選	平井和穂	写真『Sanctuary』	藤沢市
特別奨励賞	南雲龍比古	工芸『南溟の戦跡』	横浜市
特別奨励賞	山口浩二	工芸『青内被コンポート』	座間市
特別奨励賞	太田美佐枝	工芸『秋風のささやき』	横浜市
特別奨励賞	春山右濤	書『李白詩 送友人』	鎌倉市
特別奨励賞	浜岡見雲	書『劉基詩』	横浜市
特別奨励賞	甲斐青女	書『百人一首』	東京都板橋区
特別奨励賞	尾原芳子	写真『花いちもんめ』	南足柄市
特別奨励賞	矢花一弘	写真『熱い日』	横浜市
特別奨励賞	山本潤一郎	写真『ポートサイドYOKOHAMA』(3枚組)	横浜市
特別奨励賞	青木保親	写真『彩雲』	茅ヶ崎市
美術奨学会賞	五味仍枝	工芸『響』	平塚市

美術奨学会賞	竹 神 修 美	工芸『戯れ』……………	中郡大磯町
美術奨学会賞	鳥 海 綾 子	工芸『境の外側』……………	横浜市
美術奨学会賞	杉 山 幽 翠	書『李頎詩』……………	横須賀市
美術奨学会賞	中 西 雅 舟	書『山家集』……………	横浜市
美術奨学会賞	岡 田 珠 美	書『春ふかみ』……………	藤沢市
美術奨学会賞	九 鬼 康 裕	写真『大連の街角』(3枚組) ……	横浜市
美術奨学会賞	古 郡 和 敏	写真『明暗』(3枚組) ……	茅ヶ崎市
美術奨学会賞	山 本 暎 一	写真『ミコノス・スケッチ(祈りへ)』……………	藤沢市
美術奨学会賞	石 井 公 一	写真『絵どうろう』……………	横須賀市

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

入選作品目録

[工芸]

山田秀雄……………『面容』
桑原平治……………『鉄釉組鉢』
萩原和子……………『登山靴』
鈴木義之……………『クリスタル花器』
翁長 始……………『三島手大皿』
吉田万紀子……………『受胎告知(女と二天使)』
永田松丸……………『YOKOHAMA21 夢の架橋』
大野恵一……………『木の葉天目釉 深鉢』
吉岡末子……………『着物「秋色」』
久松早苗……………『絹強燃糸によるストール』
原 恒夫……………『宇宙パート23』
金子金作……………『天目茶盃』
加藤瑛子……………『緯緋タペストリー』
高梨 孝……………『練上口広壺』
大塚 正……………『茶葉末釉掛分組鉢』
加古佐知子……………『夕映えの桜』
蓮沼芳子……………『色被せ照明 百南花』
鍋田政泰……………『練上八面稔組鉢』
近野久子……………『兆し』
村田五郎……………『黄瀬戸蔓草文浅鉢』
雨宮裕子……………『(ろうけつ野草染大鉢)「桜お花見」』
堀野真砂子……………『野生』
竹内嶺夫……………『結晶釉花瓶』
小林るり……………『屏風スクリーン 風のある風景』
山内元成……………『Progress』
金子 清……………『鉄釉白掛刻線文皿』
井上照子……………『焼締組皿』
建部敏枝……………『ジュエリー(波)』
釣 敬子……………『被ガラス切り鉢』
本山洋子……………『色糸のフーガ』
和田媛岳……………『盛鉢』
乃木吉之……………『珠』

平子叔男……………『鎌倉彫 海の詩』
高垣 篤……………『in the movement』
横田 敦……………『信楽炭火烧 角皿鉢』
佐々木虎男……………『焼 焼 焼』
足立治男……………『砂塵』
大澤恭代……………『型染 早春』
渡辺真理……………『おだやかな会話』
鈴木 亘……………『練上壺』
村主 武……………『古代への望郷』
村山恵子……………『青の想』
原 みさ枝……………『土の譜 III』
八木芳江……………『紅型染藍染単衣「藍の山河」』
鈴木貴夫……………『葡萄釉壺』
石川 清……………『緋襷大皿』
橋口義昭……………『緑被色抜斑流水文指』
山本美世子……………『夜空』
大柳俊子……………『長方鉢 ひろがる輪』
飯島克己……………『一木手ぐり香合』
石黒静子……………『慈しみ』
長井直子……………『白釉組鉢』
拝 啓 司……………『たかとなすび』
久光宣子……………『憩い』
石綿明子……………『布目なずな文花器』
木村隆男……………『備前 花入』
岩崎忠夫……………『乾漆変り塗盛器』
鳥海正樹……………『草文大皿』
山下敦子……………『幸せの鳥』
宮原二三子……………『刺し子 はんてん』
角村治城……………『連珠壺』
天野雅史……………『縄文木器』
川口忠男……………『線象嵌皆具』
服部 純……………『乾漆朱漆鉢』

伊藤律子……………『矢の羽かがりの花器』
 保田百合子……………『「開く」』
 松原夫佐子……………『鉄線花図組皿(6枚)』
 黒川富子……………『私にとっての目標物(ランドマーク)』
 仲井輝子……………『釉彩大皿』
 川原徳子……………『組皿』
 木下貞雄……………『練上線文壺』
 羽鳥恵霏……………『彩画壺—嶮山』
 島村信一……………『青硝子とクリスタル』
 福岡幸基……………『グラビール 桜と鉄線紋花立一對』
 佐藤洋子……………『幼なき日』
 宮森茂男……………『備前 手捻り花入』
 飯嶋千代……………『ふれあい』
 西山豊子……………『風に舞う』
 甲斐雪江……………『双花』
 岡達夫……………『鍔銀杖頭「貂」』
 本田敏晴……………『白いマントの子』
 浜辺又八……………『光陰』
 関口正美……………『和(ナゴミ)』
 五味彦一……………『櫛目象嵌焼締鉢』
 谷田部君江……………『よそおい』
 坂本一馬……………『桂林追憶』
 石山滋子……………『回想』
 山砥光雲……………『書状箱 俱利文』
 深尾雅子……………『夜の河口』
 大内明雄……………『緑釉組向付』
 石栗芳恵……………『波が運んだ変形鉢』
 川合都美……………『みのり』
 佐藤緑子……………『虹の彼方』
 斉藤三枝子……………『麻縄胎彩金鉢』
 伊藤多喜子……………『夕映』
 小野寺和子……………『日本刺繍 着物 柿』

柴田近子……………『遥かなる記憶 (I)』
 青木みさ子……………『灰釉海芋文鉢』
 渡辺行一……………『朽ちる』
 土川正江……………『苧染屏風』
 並木昭代……………『既視感—赤』
 渡部礼二……………『組皿』
 中島弥平……………『粉引大皿』
 林保美……………『乾漆千段葉反鉢』
 中村良哉……………『乾漆大鉢「紅葉」』
 大原乾資……………『アフリカ綿板締染「自由に組合せ」』
 馬上知加子……………『雅 III』
 北垣幾子……………『彩秋(2) 紅葉』
 今井今日子……………『Composition—光』
 小林千峰……………『食籠』
 尾形政子……………『創生』
 丸田秀三……………『陽彩観月盤』
 三輪博子……………『飛翔』
 曾原哲……………『地湧 II』
 金子将之……………『練上花器「響」』
 渋谷祥子……………『秋の夕暮れ』
 佐藤京子……………『瑠璃の世界』
 高部康子……………『夕陽』
 志田美智子……………『硝子切子皿・あざみ』
 山本静枝……………『春暁』
 吉田健二……………『波紋』
 栗原恒子……………『風の詩』
 今井ユキ……………『森の雫』
 中田文……………『州浜波文宝珠釜』
 星山征子……………『附下 訪問着 ぼたん』
 大石英夫……………『油滴天目茶碗』
 萩原直子……………『Toy bowl』

[書]

内 藤 慧 華……………『臨筋切』
 鈴 木 白 鷺……………『花すすき』
 長 尾 雪 永……………『白樺』
 伊 藤 子 扇……………『金槐集の歌』
 大 澤 清 雨……………『青柳の』
 吉 本 寿 峰……………『五言律詩 岳陽晚景』
 野 口 春 峰……………『五言律詩 同王徵君洞庭有懷』
 荒 砂 典 子……………『夏の夕』
 小 池 青 芳……………『実朝のうた』
 大 泉 菊 江……………『ほととぎす』
 佐 藤 礼 子……………『亡き母が詠みし歌』
 塩 沢 鷺 州……………『宇治の柴舟』
 高須賀鳳蘭……………『杜甫詩 登楼』
 片 山 静 苑……………『李白詩』
 松 永 瑞 子……………『秋の野を』
 中川由紀子……………『青葉さへ』
 木 多 良 子……………『道のべに』
 橋 本 芳 雪……………『秋(新古今集二首)』
 井 上 木 鳳……………『過香積寺(王維)』
 仲 田 万 里……………『幽州夜飲』
 松 本 亘 正……………『邱希範詩』
 杉 山 圭 子……………『杜審言詩 送崔融』
 鈴 木 玉 葉……………『谷口書斎寄楊補闕』
 福 井 幽 紅……………『孫逖詩』
 牧 野 忠 雄……………『登総持閣 岑参詩』
 山ノ井青咲……………『菊』
 伊 勢 青 京……………『古今集より二首』
 逸 見 月 草……………『万葉の歌二首』
 服 部 青 昌……………『万葉の歌二首』
 伊 藤 青 光……………『さつき』
 村 井 純 子……………『万葉二首』

関 口 青 霞……………『万葉の歌二首』
 佐 藤 青 香……………『万葉の歌二首』
 黒 田 杪 崑……………『王禕の詩』
 岡 崎 香 芳……………『王維詩』
 藤 谷 桂 雪……………『漢詩』
 浅羽紀代子……………『柳永詩』
 小 林 清 坡……………『王維詩二首』
 和 気 清 堂……………『白居易詩 会鳥三年春』
 平 田 由 江……………『清平調詞一、二 李白』
 喜瀬美佐子……………『ゆきてみぬ 他九首』
 斎 藤 照 子……………『和歌七首』
 大江喜幸江……………『三十六歌仙』
 亀 井 桂 華……………『一宿金山寺』
 玉 崎 葉 光……………『鳥啼歌』
 白 鹿 光 秋……………『尋陸羽不遇』
 荒 井 翠 扇……………『五言律詩「送人尉黔中」』
 指 篲 登 美……………『風』
 小 林 千 幸……………『海にて』
 綿 貫 吉 野……………『立原道造の詩 田舎歌』
 穂坂美代子……………『小倉涌史の句「花桐の声して神と和解せよ」』
 高 橋 秀 榮……………『追憶の母』
 大 塚 万 里……………『松山千春の詩』
 中 山 政 子……………『晩秋』
 石 井 久 美……………『幻の湖 井上靖の詩』
 栃 木 郁 子……………『大阿蘇』
 千 葉 加 音……………『竹の青さ』
 末 永 幸 枝……………『三宅惟子の歌』
 日守菜穂子……………『市原恭子の句』
 小 島 慶 子……………『村上鬼城の句』
 北 川 泰……………『日ぐらし 前田鐵之助の詩』
 石 井 富 代……………『冬の便り』

佐野幸代……………『川崎洋詩 夕焼空よ』
野口靖美……………『井上靖の詩 礎石より』
林田紀子……………『雲の平にて』
鈴木秀明……………『立原道造の詩「村はづれの歌」』
和田里枝……………『父』
片平堯子……………『八木重吉の詩 春』
山士家啓子……………『小手鞠の髪飾り』
志村寿女……………『水原エリ詩“風の中のつぶやき”より』
大木銀子……………『立原道造の晩秋』
大木明子……………『シェイクスピアのソネット』
吉田萬里……………『北村透谷詩 蝶のゆくへより』
森田にいな……………『サングラスの蕪村より』
名畑美峰……………『川の流れのように』
井上信子……………『書(女ひとり 永六輔詩)』
八木静香……………『浜千鳥』
及川節子……………『乳母車』
須藤欣華……………『西條八十の詩「踟躕」』
杉森喜代……………『堀口大学の詩 雪の中の春』
和光宗雄……………『吉野弘詩「石仏」』
小倉清子……………『星野富弘「ふうちょうそう」』
西山喜代美……………『三好達治の詩 春の日の感想より』
小平初子……………『坂村真民の詩』
廣川心齋……………『竹中郁の詩 悲劇より』
馬場虹苑……………『三好達治の詩 紅梅花』
梅田昌葉……………『伊藤静雄の詩 夕の海』
上野春海……………『井上靖の詩 白龍堆』
武居尚琴……………『矢沢宰の詩「ほたるは星になった」より』
深浦桂子……………『中原中也の詩 港市の秋より』
柴本華雪……………『春山行夫の詩 苑』
小安良一……………『秋葉てる代の詩』
関根富美子……………『サトウハチロー詩「虹を願ふ」』

宮崎美智子……………『十月能登の海浜(芳雲の詩)』
上村仙石……………『島田芳文詩 さよなら峠』
野田容子……………『秋のピエロ』
菅谷弘巳……………『たんぽぽ』
玉田まみ……………『人と人』
小泉恵俊……………『夜明け前』
福島霞葉……………『中村稔の詩 沙丘にて』
饗庭雅翠……………『このたびは』
古谷史……………『山川の風』
松田松逕……………『和歌一首 大伴旅人 古の七のさかしき人ども』
竹田晃堂……………『実朝の和歌十首』
中澤碧怜……………『臨関戸本古今集』
山口桐里……………『万葉集より』
美和肖光……………『万葉集より四首』
岩崎菊畦……………『和歌三首』
住本霞城……………『和歌二首』
萩原華径……………『万葉集より』
高野梅香……………『茂吉の歌二首 はるばると…』
明石蕙州……………『み山路や…』
岡本蘇心……………『窪田空穂の歌』
中村蒼汀……………『李白詩』
小川如泉……………『高青邱の詩』
小林廣洲……………『出郊至金石台』
山本花聲……………『唐詩』
佐野圭雪……………『黄鶴楼』
平田十臥……………『遜逸詩』
鈴木莊鶴……………『唐詩』
若林花泉……………『「曲江対酒」杜甫詩』
渋谷莊江……………『王維詩』
木下滔泉……………『和晋陵陸丞早春遊望』
中山愛泉……………『送魏萬之京』

神 藤 莊 松……………『唐詩』
小 山 莊 雪……………『柳邊』
野 頭 莊 雲……………『王勃詩 滕王閣』
佐 竹 花 泉……………『林逋詩』
福 島 虹 泉……………『王維詩』
辻 卷 菫 泉……………『溫庭筠詩』
立 橋 飛 鳳……………『厲鶚詩』
野 澤 游 泉……………『沈佺期詩』
谷 川 青 龍……………『賈至詩』
東 田 翠 泉……………『李紳詩』
原 田 美 泉……………『盧綸詩』
上 原 紅 華……………『李紳詩』
谷 口 春 泉……………『羊士諤詩』
菅 野 堯 処……………『王慧詩』
尾 崎 静 鳳……………『張載(七哀詩)』
楠 琴 処……………『杜甫詩』
佐 藤 柚 処……………『明詩三首』
佐藤満洲子……………『杜甫詩 張氏の隱居に題す』
早 瀬 香 谷……………『漱石詩』
長 岡 抱 琴……………『すずむしの声』
大 山 青 高……………『歸吳至楓橋』
柿 本 山 秋……………『陸機樂府前緩聲歌詩』
池 上 好 子……………『春日山』
長 島 正 恵……………『万葉集』
稻 葉 竹 苑……………『良寛詩』
相 部 小 香……………『吉野河』
和 田 清 泉……………『さほ山』
八十川悦子……………『春もやわけしきととのふ月と梅』
大 川 泰 仙……………『王維詩「少年行」』
高 橋 彩 秀……………『秋の湊』
加 藤 翠 郷……………『古詩(猛馬行)隸書』

東 山 右 徹……………『鮑照詩』
菱 田 右 紫……………『武帝詩二首』
菊 島 右 雪……………『吳邁遠詩』
松 尾 右 翠……………『金谷重開美酒杯』
石 井 右 千……………『武帝詩』
杉 浦 右 花……………『虞世南詩』
岩 土 右 紀……………『雜詩二首』
長谷川右扇……………『曹植詩』
小 川 右 佳……………『文帝詩』
中 溝 右 曄……………『枚乘詩』
吉 田 嘉 洋……………『湖上春行』
山 野 景 翠……………『田家』
三 村 静 睦……………『題璿公山池』
鈴 木 香 羊……………『陸游詩 晚泊』
坂 神 深 陽……………『郎士元詩』
井 澤 洋 高……………『夏夜對月』
和 田 静 月……………『富春』
渡 辺 悟 竹……………『咸陽城東樓』
元 松 松 茜……………『河陰道中』
門 田 可 寿……………『自湘東驛遵陸至蘆溪』
木 村 晴 雲……………『秋日山寺懷友人』
横 山 蘭 葉……………『三峡橋』
茶 木 静 萌……………『落星寺』
奥 田 栖 芳……………『羊子諤詩』
安 部 梅 陽……………『李頻詩』
木 須 青 苑……………『寒山詩』
石 井 青 珠……………『杜甫詩』
鈴 木 青 秀……………『杜審言詩』
天 形 青 遥……………『杜甫詩』
橋 本 青 玉……………『白樂天詩』
池 田 青 柳……………『李白詩』

[写真]

小杉史翠……………『嵯峨天皇詩 和内史貞主秋月歌』
 青木湘堂……………『岑參詩 喜韓樽相過』
 青木玉韻……………『釋顯常詩』
 川添紅琇……………『杜甫詩 牽牛織女』
 神東榮春……………『溫庭筠詩 雞鳴埭歌』
 島田幸舟……………『方丈記』
 檜垣房仙……………『韋莊詞 菩薩蠻』

川田良江……………『中国の食文化(四川省)』(3枚組)
 高橋 弘……………『出港』(2枚組)
 亀井貫司……………『白い山稜』
 岡本 一……………『求愛』
 中島義範……………『冬・日本海』(2枚組)
 臼井 孝……………『ホコ天狂騒曲 94』(2枚組)
 戸塚吉久……………『土に生きる若者』(2枚組)
 高木 勉……………『ランドマークタワーから』
 稲毛ヨシオ……………『未来都市21ヨコハマ』(3枚組)
 齋藤智恵子……………『台所より』(3枚組)
 角森昭収……………『欲望のあいまいな対象』(2枚組)
 大関通夫……………『the sky for two』
 尾松房子……………『樂園』
 村上吉正……………『浅草散歩』(5枚組)
 内田幸夫……………『嚴冬』
 青蔭文雄……………『束の間の平和-カンボジア-』
 古谷久夫……………『飛び立つ』
 堀坂和夫……………『攻防』(3枚組)
 杉原昌和……………『朽ちてゆく朝』
 高木英明……………『夢のいろどり』
 笹尾佳夫……………『波紋』
 和田幸夫……………『死産の村(北緯68度)』
 石渡三津雄……………『孤鷺』(2枚組)
 本間英夫……………『穂高憧憬』(3枚組)
 畠山英治……………『暁の富士』
 澤田秀雄……………『夕陽』
 黒野秀子……………『エイズに挑む(国際エイズ会議場より)』(2枚組)
 斉藤太郎……………『大空の出会い』
 井上多喜代……………『暮れる頃』
 渡部義範……………『凝視』
 内田清 一……………『禱り』(3枚組)

山 口 昭 弘……………『バルンのある世界』(3枚組)
小 林 克 己……………『幻の富士』
金 森 大 輔……………『砂の座』
安 井 博 道……………『暁光』
岡 田 貢……………『PERFORMANCE』
中 丸 英 夫……………『Land Scape Yokohama 8,21,1994』
中 川 英 治……………『山岳盛夏』
山 崎 廣……………『寒中神輿錬成大会』
佐 治 利 雄……………『幽玄情話』
姫野日出夫……………『'94 Photo Poesy』
中 島 高 美……………『求愛』
矢 田 哲 彦……………『静かな丘』
藤 原 満……………『さいはての島 春の景』

審査経過

工芸

●搬入点数272点(209人) ●入選点数135点(135人)

今回の第30回神奈川県美術展における工芸部門への応募総点数は209人による272点であり、これを昨年(第29回展)の時の233人による262点に比べると、応募作家数では24人の減であり、応募作品数では10点の増加である。今年は神奈川県展が30年目を迎えるに当たって、特に準大賞が4部門に1点、3部門にも1点ずつ増やされているばかりか、その金額も10万円ずつ追加されて50万円となっていたのにもかかわらず、逆に応募作家数の減少はいささか予想外であった。

しかしその反面、応募作品の内容やその評価の点に関しては、そのレベルが年ごとに向上して来たことは確かであり、総点数272点の審査に際しては、7名の審査員が1点1点挙手による採点法を行った最初の段階において、過半数の挙手を得た作品は既に160点であった。その後、その過半数を得た作品に対して、同一作家のものは出来るだけ1点にしぼり、また4人の挙手を得た作品と、3人の挙手を得た作品を対象に更に厳しい審査を挙手によって1点ずつ行い、活発な討論も加えるなどして135人による135点の入選作品を決定したのである。

入選作品が決まると、工芸、写真、書の三部門展の大賞、準大賞、特選の一部を決定するための大賞選考が各部門から選出された3点ずつ、計9点を対象として別室で行われ、審査には各部門の審査委員長及び副委員長がこれにたずさわって決定したが、工

芸部門からは準大賞1点と特選1点が、その他の賞は工芸部門の審査員により下記の如く決定した。

〔準大賞〕○人見啓一氏(45歳)茅ヶ崎市柳島海岸在住、「彩泥鉢」(陶芸)。〔特選〕○沼野真紀さん(27歳)相模原市相生在住、「遊園地」(七宝)。〔特別奨励賞〕○南雲龍比古氏(28歳)横浜市戸塚区在住、「南溟の戦跡」(陶芸)。〔特別奨励賞〕○山口浩二氏(42歳)座間市ひばりが丘在住、「青内被コンポート」(クリスタル硝子)。〔特別奨励賞〕○太田美佐枝さん(69歳)横浜市神奈川区在住、「秋風のささやき」(人形)。〔美術奨学会賞〕○竹神修美さん(53歳)中郡大磯町西小磯在住、「戯れ」(七宝)。〔美術奨学会賞〕○鳥海綾子さん(31歳)横浜市鶴見区在住、「境の外側」(硝子)。〔美術奨学会賞〕○五味仍枝さん(67歳)平塚市八重咲町在住、「響」(皮革)。以上の8作品である。

準大賞を獲得した人見氏の彩泥鉢は、既に同じ系列の作品が日本陶芸展でも優秀賞を受賞していて、現代陶芸としては、そのフォルムもパターンも全く彼独自の創作による斬新で個性溢れる秀作である。工芸でも現代という時代に生きる作者の個性が如実に現われていなければ意義がなく、徒らに古器の亜流に溺れたり、時代錯誤におちいつたりしたものでは、どんなに労作であろうと入選は難しいものである。

吉田 耕三

書

●搬入点数283点(283人) ●入選点数201点(201人)

本年は神奈川県美術展30回記念展と銘うたれて開催されます。想えば永い歳月と歴史を重ねました。書部門は正確には第3回展よりの公募で、前2回は招待展の形をとりました。

ともかくこの28年に亘り多くの人達はその覇を競い入選入賞をはたして県美展書部門の招待作家の栄誉を獲得して巣立ちました。その人達は既に60有余人を数え、特に書部門に於ては、それらの人達の事後の進歩の跡付けと相互交流の意味を含めて3年ごとに「神奈川県美術展書部門招待展」を開催しております。30回の節目を迎えた本年の書の出品者は283点で入選は201点です(特に書部門は開催当初より1人1点の原則です)。ここ数年来はほぼ300点前後に定着しておりますが、15年前の出品者数の約2倍になっており、この部門も着実に発展していることも跡付けられます。

さて、今年の子の出来具合は端的に言えば可もなく不可もないという作柄です。全体のレベルもやや停滞気味ながらも平均化しております。それは出品者層の世代も変りつつありますが、特に書は一朝一夕に人材は育ちません。かなり永い間の習練の累積を待たねばなりません。ちなみに本年の入賞者の殆どが50才代60才代の方々です。大賞の「八木香葉君」は65才で約40年間の書歴を持っており、今迄にない表現様式を具現しました。準大賞の「柴岡明洞君」も本展参加20年目の栄誉です。「浜岡見雲君」の横物行草作品も充実しておりました。その他「甲斐青女」「春山右濤」「中西雅舟」「杉山幽翠」「岡田珠美」氏の入賞者も相応の作と言えますが、尚一層の研鑽努力を希求いたします。

殿村 藍田

写真

●搬入点数228点(118人) ●入選点数91点(55人)

30周年にあたって搬入数も若干増加し、内容的にも格段の躍進をみた。個性の強い5人の審査員が、各種の傾向の作品を配慮して、厳正な審査を行った。

最近、外遊作品の応募は多くなったが、観光ツアーのルートで写した作品は、類型的な観光写真に堕してしまう。しかるに今回は、本格的な外遊作品2点が、最高賞を競いあった。審査員の激論のすえ、決選投票で準大賞は、山口道子「夢幻」と決定された。ベネチアの仮面舞踏会の2枚組は、銀板写真を彷彿させる色調が、ファンタジーを醸し出した。イタリアの古典芸術に、一步ふみ込んで撮影して成功した。

特選の吉田陽子「アフタヌーン(西アフリカ)」の3枚組は、ルワンダの難民救済で揺らぐアフリカで、ここは平和な西アフリカの生活に心あたたまる作品である。まん中の子供の写真が素晴らしい。トップの群像の写真が弱いのが残念だった。

特選の平井和穂「Sanctuary」は、昨年特選を受賞した「オーヴェル教会」に引き続きコラージュの労作である。聖域、禁猟区といった題名が心をうつ。世界的に自然の環境破壊が問題になっているとき、象徴的な聖域を作りあげた意図が抜群だった。英語の題名には、訳を付けるべきだ。

特別奨励賞 尾原芳子「花いちもんめ」は、京都風の花のデザインが、美しく描かれた。写真的美しさを追求して効果をあげた。矢花一弘「熱い日」は、暑い暑い夏の日々を、4枚の写真でアピールした。独自性のある感覚がよかった。青木保親「彩雲」は、富士山の作品だが雲がすごい。何年に一度の妖雲で、凄味がある。山本潤一郎「ポートサイドYOKOHAMA」は、ヨコハマ物としてそつなくまとめたが、ボディーで絵を描く1枚が、一寸ムードがちがうという意見もあった。

美術奨学会賞 九鬼康裕「大連の街角」は、大連に詳しいわけではないが、なんとなく戦前の風景と変りがない感じがする。戦後50年の今日、アジアの現況を知りたいと思う。山本暎一「ミコノス・スケッチ」は、教会風景が荘厳に描かれている。純風景作品の代表として受賞された。古郡和敏「明暗」は、バレーボールの3枚組で、球を追う競技をうまく掴んでいる。スポーツ写真の代表として受賞された。石井公一「絵どうろう」は、祭りの大きな灯籠に、竹久夢二風な女性を描いたロマン調を背景にして、見物客のシルエットが浮ぶ大正ロマンの情景になった。

奥村 泰宏

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運 夫『九十九里』 日本画
第2回	41年度	廣瀬 義 男『作品Ⅰ』 洋画
第3回	42年度	垣内 治 雄『坐る』 彫刻
第4回	43年度	川村 直 子『'69-A・'69-B』 洋画
第5回	44年度	山井イク夫『Lady 70-1・2』 立体造形
第6回	45年度	伊 藤 彬『天涯巡礼』 日本画 大久保利瓘『Straw』 工芸 西川 万 象『廬子諒詩』 書 加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』 写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』 洋画 島津 碧 崙『寒山詩』 書 大谷 正 夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』 写真
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』 版画 林 良 達『騎士』 工芸
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』 彫刻 石川 充 宏『Girl in chair』 工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』 日本画
第11回	50年度	鎌田 恵 子『Lost my way』 工芸
第12回	51年度	泉谷 淑 夫『愁傷のモニュメント』 洋画
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-'77』 彫刻
第14回	53年度	坂田 一 之『MIRROR』 立体造形
第15回	54年度	前本 利 彦『暗い部屋Ⅰ・Ⅱ』 日本画 川口 流 坡『菅原道真詩』 書
第16回	55年度	和久井Who『HANGING』 立体造形 市原 欣 一『ふるさと』 写真
第17回	56年度	坂井 彰 夫『SEISHO』 彫刻 高木 参 平『BODY』 工芸

第18回	昭和57年度	小 泉 正 彦『冬の木』 洋画 井上 隆 敏『イグナドバ選手』 写真
第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』 彫刻 茶木 静 谷『竹叢松影』 書
第20回	59年度	東谷 武 美『日蝕F』 版画 西 雅 秋『CASTING VIEWPOINT』 野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』 工芸
第21回	60年度	鶴見 厚 子『夢の質感』 洋画 石渡 四 郎『硫黄島の再会』 写真
第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』 彫刻 浜本 艸 舟『良寛詩』 書
第23回	62年度	高橋 洋 子『WAVE(BLUE FENCE)』 立体造形 森山 可 余『俳句(原石鼎)』 書
第24回	63年度	三枝 孝 司『複製させた場所』 版画 菅間ゆみい『夢印象』 工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』 彫刻 片岡 順 一『大気現象』 3枚組 写真
第26回	2年度	山本 靖 久『時の化石—豊沃のかたち』 洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』 工芸
第27回	3年度	荒井 正 美『蟻の迷走』 彫刻 相沢 淳 一『樹界』 2枚組 写真
第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』 彫刻・立体造形 中森 万 象『郎士元詩』 書
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』 日本画 平野 朱 美『電解ザウルス』 工芸
第30回	6年度	辻 忍『野辺』 彫刻・立体造形 八木 香 葉『笹澤美明詩 菊』 書

第30回記念神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉遊亀
斎藤義重
圓錐勝三
蓮田脩吾郎
殿村藍田
比田井南谷

委員会委員

委員長
上野豊
副委員長
菅原寿雄
美術展委員
井上信道
奥村泰宏
神戸由雄
國領経郎
近藤弘明
斎藤義重
酒井忠康
匠秀夫
弦田平八郎
殿村藍田
永井鐵太郎
中原佑介
針生一郎
柳生不二雄
吉田耕三
渡辺豊重

大賞選考委員

日本画、洋画、版画
彫刻・立体造形
内田あぐり
近藤弘明
國領経郎
酒井忠康
柳生不二雄
渡辺豊重
斎藤義重
針生一郎

工芸、書、写真
永井鐵太郎
吉田耕三
大島崑山
菅原寿雄
岡井耀毅
奥村泰宏

審査員

日本画			
内田あぐり			
工藤甲人			
近藤弘明			
弦田平八郎			
洋画			
遠藤彰子			
陰里鉄郎			
國領経郎			
酒井忠康			
林敬二			
宮崎進			
版画			
相笠昌義			
園山晴己			
柳生不二雄			
由木礼			
渡辺豊重			
彫刻・立体造形			
安藤泉			
井上信道			
斎藤義重			
中原佑介			
針生一郎			
真板雅文			
最上壽之			

工芸			
小野次雄			
小野寺玄			
佐藤樹美			
坪内君子			
永井鐵太郎			
吉田耕三			
由水常雄			
書			
岩澤蕙堂			
大島崑山			
久保田昭子			
菅原寿雄			
仙場右羊			
殿村藍田			
船本芳雲			
吉田蘭處			
写真			
江島隆			
岡井耀毅			
奥村泰宏			
梶原高男			
浜口タカシ			

実行委員

日本画			
大山鎮			
◎斉藤典彦			
能島和明			
洋画			
石田茂嗣			
◎白鳥三郎			
鈴木雪子			
田中茂			
森山杏子			
版画			
◎太田廣			
大庭明子			
彫刻・立体造形			
井上しげこ			
◎井上麦			
奥野ゆか			
長江眞弥			

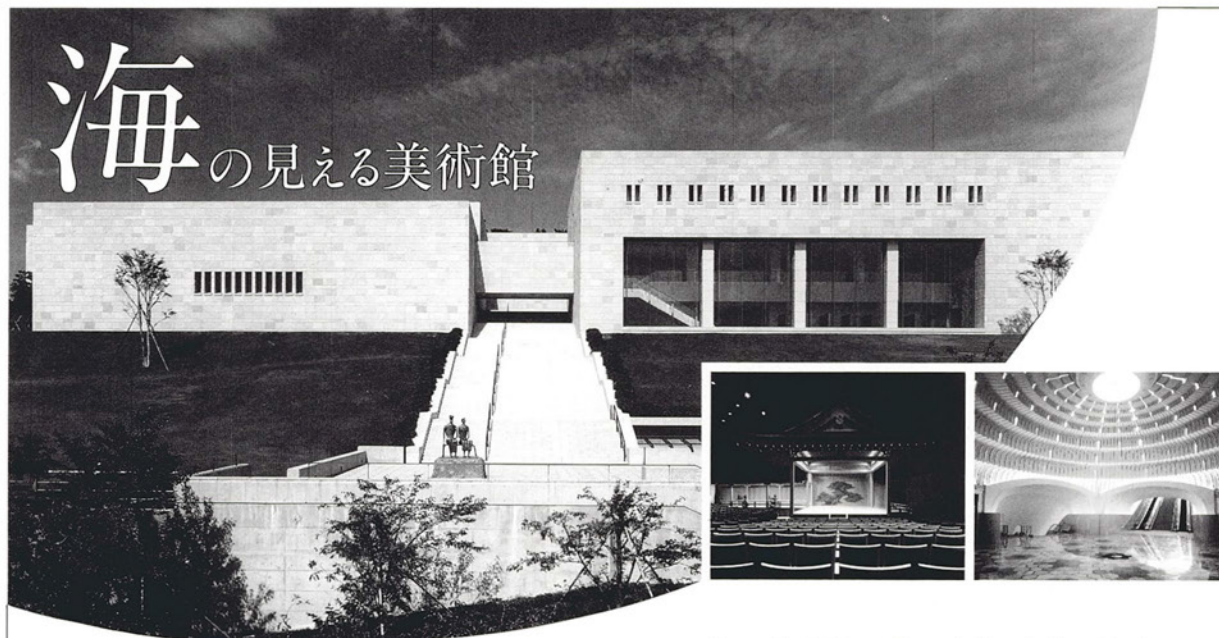
工芸			
赤堀郁彦			
工藤直			
斉藤孝子			
◎芝山吉邦			
鈴木節子			
尾留川忠			
松本祐昌			
書			
飯田美佐子			
伊奈翠陽			
◎溪口幽城			
茶木静谷			
丹羽蒼処			
吉田春翠			
写真			
阿部タモツ			
篠崎明弘			
鈴木健夫			
高橋勤			
中島倍三			
◎三井文一			
吉田健吉郎			

◎は実行委員長

ごあんない

海

の見える美術館



開館／9:30AM～5:00PM（入館は4:30PMまで）

休館／毎週木曜日（祝日は開館）

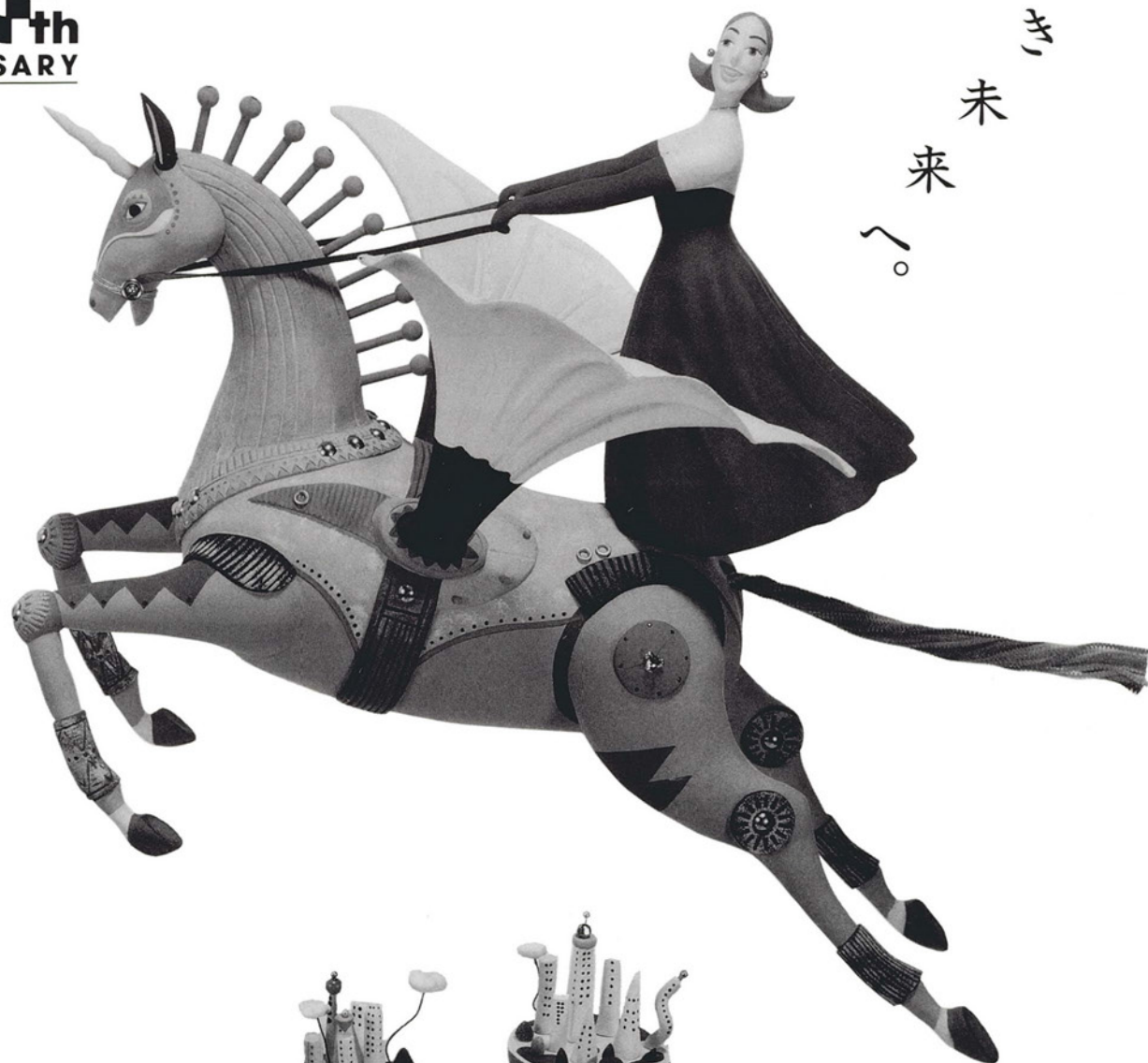
●熱海駅よりバス④番のりばMOA美術館行

MOA美術館

住所／熱海市桃山町26-2 TEL.(0557)84-2511

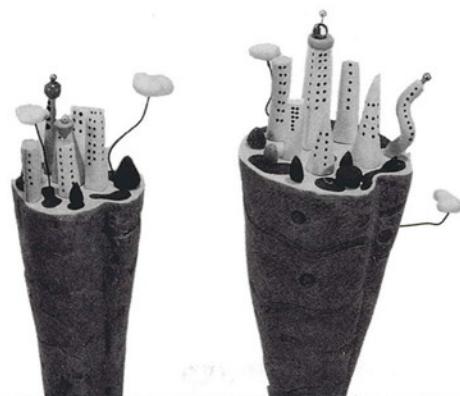
30周年ありがとう

30th
ANNIVERSARY



き
ら
め
き
未
来
へ。

皆様と共に、おかげさまでザ・ダイヤモンドは30周年。
ひとつひとつの個性を磨いて、多彩なきらめきを未来へ……
これからも、ますます輝くザ・ダイヤモンドにご期待ください。



多 彩 宝 庫

Theダイヤモンド

NAGISA ポルタカード
メンバー募集中



都会派の新ギフト
プリペイドの **タカシマヤ バラカード**



タカシマヤ バラカードは、新ジャンルの生活百貨カードです。
●1,000円 ●3,000円 ●5,000円 ●10,000円 ●30,000円 ●50,000円 ●100,000円の7種類
タカシマヤ バラカード、こんなところが便利です。

①お買物のたびごとにわずらわれる小銭の心配がありません。②ご贈答用にスマート。③ギフトパッケージ(無料・有料の専用パッケージ)を各種ご用意いたしております。④裏面にはご利用月日と残額が30回まで表示されます。

※なお、ご利用回数が30回をこえたカードにつきましては、高島屋各店の商品券売場にてご利用残高分のカードを再発行いたします。※タカシマヤ バラカードは、ギフトカード1,000円券などの一部の商品を除き各店でのお買物にご利用いただけます。

※バラカードをお求めの際には消費税がかりません。

バラカードのお求めは

●横浜店：1階商品券サロン・6階商品券売場で承ります。

 **Takashimaya** • YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111/全館夜7時まで営業

プロのために、プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■新・文具館 伊セギ町・本店別館4F・5F TEL.(045)261-1231 ■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル5F TEL.(0466)26-1411

■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F TEL.(045)453-0811 ■厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

※ルミネ店は書道用品・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂伊セギ店 10月上旬リニューアルオープン

書籍館 ギャラリー + 文具館

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

いい顔して生きていこうよ。



43の専門ショップがおとどけする
超個性ファッション&グッズ。
バラエティに富んだ30のおいしさが
集うテイスティ・ステージ。

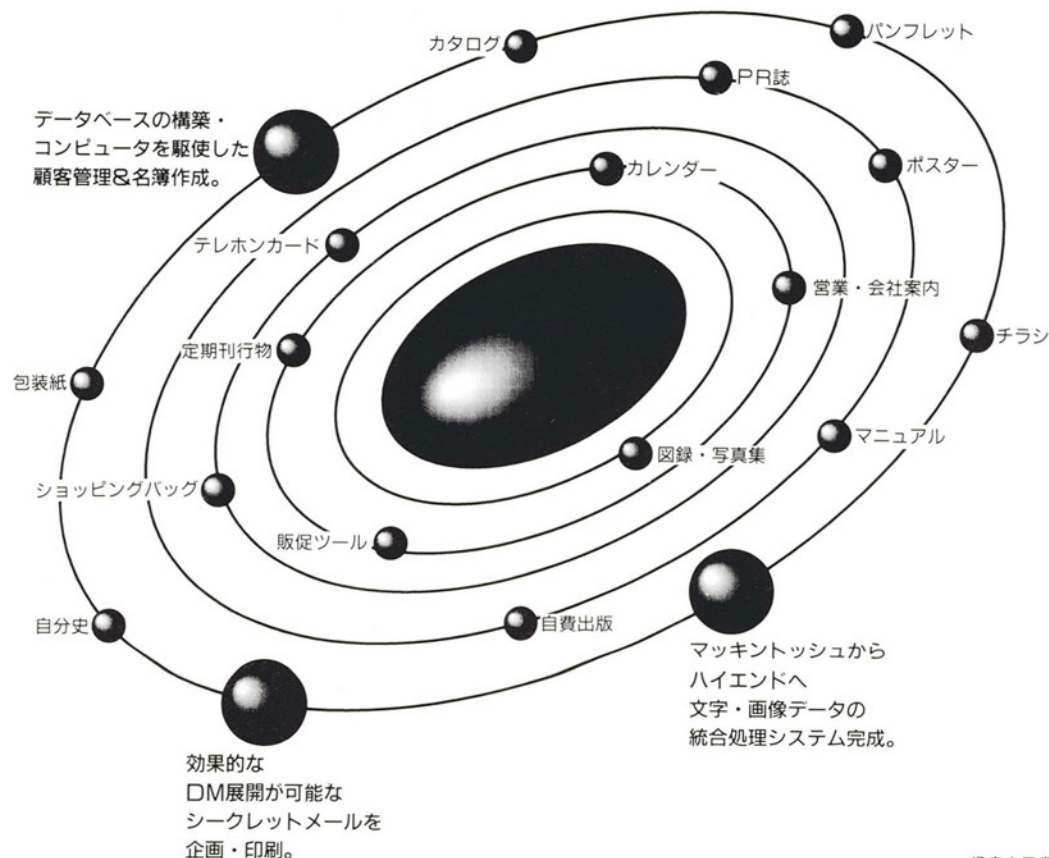
〒231 横浜市中区真砂町3-33(JR・地下鉄関内駅前) TEL045-651-1431(代)

Good for you
CERTE

情報をカタチにします。

私たちは、さまざまな表現を駆使して情報に命を吹き込む
コミュニケーションツールのトータルクリエイター。
最新の設備と、卓越した技術で情報をカタチにします。

神奈川県指定標準工場



情報化時代の 多彩なニーズに お応えします。

通産大臣賞 中小企業庁長官賞 東京通産局長賞受賞

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231 ☎(045)681-0861 代
営業本部・工場／横浜市中区新川町1-2 〒232 ☎(045)252-2511 代
東京営業所／東京都港区浜松町1-2-17 〒106 ☎(03)5401-1231 代

営業企画本部
☎(045)252-2511

FAX. 営業企画本部／(045)252-8826
東京営業所／(03)5401-1230

印刷ショップ 株式会社アトラス
中区相生町5丁目 馬車道 ☎(045)641-4132

企画・デザイン 株式会社エイ・シー・ピー
中区井天通6丁目 ☎(045)201-8263

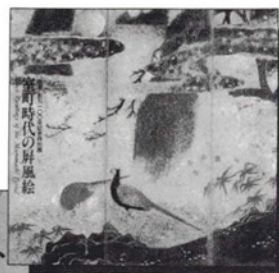
たくさんの“感動”を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

IT IS OUR BUSINESS TO CARRY "INSPIRATION"
The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays
a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績

Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィーナス展 ● VENUS DE MILO
ツタンカーメン展 ● TUTANKHAMEN
レンブラント名作展 ● EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES
大阪万国博美術展 ● EXPO'70 ART EXH.
ゴヤ展 ● GOYA EXH.
モナ・リザ展 ● MONA LISA EXH.
東大寺展 ● EXH. OF TODAIJI TEMPLE
江戸大美術展 ● THE GREAT JAPAN EXH.
将軍の時代展 ● THE SHOGUN AGE EXH.
インド古代彫刻展 ● ANCIENT SCULPTURES OF INDIA
比叡山と天台の美術展 ● THE ART OF TENDAIJI BUDDHISM
ロダン展 ● AUGUSTE RODIN EXH.
黄河文明展 ● EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER
薬師寺展 ● EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE
日タイ修好100周年展 ● EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND
世界現代ガラス展 ● WORLD GLASS NOW EXH.
神々のかたち—仮面と神像 ● THE SHAPES OF GODS—MASKS & IMAGES OF GODS
シーボルトと日本 ● VON SIEBOLD AND JAPAN
大エジプト展 ● THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT
17世紀オランダ絵画展 ● HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17 TH
柿右衛門展 ● KAKIEMON STYLE WARE EXH.
スミソニアン—アメリカの大発明展 ● SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY
鎌倉彫刻展 ● UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)
ミレー展 ● MILLET EXH.
大英博物館展 ● THE BRITISH MUSEUM EXH.
中国兵馬俑展 ● CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.
トプカプ宮殿秘蔵展 ● THE SPLENDOR OF TURKISH CIVILIZATION : OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE
日本国宝展 ● NATIONAL TREASURES OF JAPAN
ローマの文豪常展 ● HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME
ユーロパリア展 ● EUROPALIA EXH.
ヴァチカン展 ● MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN
三井寺秘宝展 ● ART TREASURES OF MIIDERA TEMPLE



「信頼と技術」で
美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械
および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海 陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保 管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。



日本通運 横浜北店 ☎045-521-2222

発行●神奈川県美術展委員会

事務局：神奈川県民部文化室

表紙デザイン●株式会社伊藤隆之デザイン事務所

撮影●菊屋写真工房・大橋一彦

本文デザイン●株式会社エイ・シー・ビー

制作●株式会社野毛印刷社

